

トルコギキョウ斑点病の粒剤による防除

福島県農業センター 生産環境部 作物保護科

1 部門名

花き—トルコギキョウ—病害虫防除

2 担当者名

堀越紀夫、大竹裕規

3 要旨

トルコギキョウ斑点病は、生育初期に発生し、上位葉まで蔓延すると防除が困難な病害である。そこで、アゾキシストロビン・メタラキシルM粒剤（商品名：ユニフォーム粒剤）を定植時に土壌表面散布しその効果を確認したところ、高い防除効果が認められた。

- (1) 品種は「レイナホワイト」を用い、定植時に粒剤を土壌表面散布した。定植6日後に斑点病菌を噴霧接種した。
- (2) 定植31日後に発病程度別に調査し発病度を求め、発病度から防除価を算出した。9kg/10a処理では、防除価84.8、18kg/10a処理では91.3となり、防除効果が認められた（表1）。
- (3) 2023年12月6日に、ユニフォーム粒剤は、トルコギキョウ斑点病に対し、使用量:9~18kg/10a、使用時期:定植時、使用方法:土壌表面処理で農薬登録適用拡大となった。

表1 トルコギキョウ斑点病に対するユニフォーム粒剤の防除効果

供試薬剤	処理量 使用方法	区制	調査葉数	発病指数					発病葉率 (%)	発病度	防除価 ¹⁾
				0	1	2	3	4			
ユニフォーム粒剤	9kg/10a 土壌表面処理	I	200	189	3	2	5	1	5.5	3.3	84.8
		II	194	188	1	2	3	0	3.1	1.8	
		III	200	200	0	0	0	0	0	0	
		IV	200	196	4	0	0	0	2.0	0.5	
		平均	198.5	193.3	2.0	1.0	2.0	0.3	2.6	1.4	
ユニフォーム粒剤	18kg/10a 土壌表面処理	I	200	197	2	0	0	1	1.5	0.8	91.3
		II	200	200	0	0	0	0	0	0	
		III	200	194	1	2	1	2	3.0	2.0	
		IV	200	199	0	1	0	0	0.5	0.3	
		平均	200.0	197.5	0.8	0.8	0.3	0.8	1.3	0.8	
無処理		I	190	171	6	2	0	11	10.0	7.1	
		II	168	142	1	2	10	13	15.5	12.9	
		III	194	162	10	5	8	9	16.5	10.3	
		IV	200	182	1	6	5	6	9.0	6.5	
		平均	188.0	164.3	4.5	3.8	5.8	9.8	12.7	9.2	

1) 防除価: $100 - (\text{処理区の発病度} / \text{無処理区の発病度}) \times 100$ 防除価100が最も高い効果を示す。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和4年度
- (2) 研究課題名 新奇病害虫・難防除病害虫防除技術の確立

5 主な参考文献・資料

- (1) 大竹裕規ら, 北日本病虫研報, 71, p.88-89, 2020.
- (2) 堀越紀夫ら, 日植病報, 89 (3) p199-200, 2023